

卒後年数	産婦年数	身分	目標および役割	研修内容
1	0	初期研修医	■初期研修終了	◎後期研修医は院内・外から原則として初年度からの産婦人科研修医を募集する ●1年次:産科および婦人科の基礎(聖隷浜松)
2	0			
3	1	産婦人科専攻医(後期研修医)	■産婦人科専門医取得(産婦人科医としての最低限の知識技能の取得)	●2~3年次:産婦人科研修(聖隷浜松)および関連病院(聖隷横浜など)でのプライマリー研修
4	2			麻酔科(硬膜外麻酔分娩を含む)、NICU研修、生殖補助医療、後輩指導
5	3			●4年次:産婦人科としての研修(聖隷浜松)、後輩指導、専門医取得
6	4			
7	5	産婦人科スタッフ (医員、医長)	■産婦人科専門医としてのスキルアップ ■スーパー専門医取得 産婦人科一般、婦人科腫瘍、周産期、生殖医学、腹腔鏡、超音波など	◎専門医取得から卒後10年程度までの公募(院内・院外含めて)
8	6			●産婦人科全般の業務をこなしながら、superspeciality (subspeciality)領域の専門医取得をめざす
9	7			→産婦人科全般、婦人科腫瘍、周産期、生殖医学、腹腔鏡手術など希望の領域を中心に研修
10	8			●研修内容の希望により関連する科および他院への短期研修あり
11	9			
12	10			
13	11			●関連する病院への短期出張あり
14	12			
15	13			●希望により国内および海外への短期留学
16	14			
17	15			
18	16	産婦人科専門スタッフ (主任医長、部長)		

- 産婦人科専攻医(後期研修医)では、Generalな産婦人科全般の知識・技術取得を目標とする(産婦人科医としての最低限のスキル)
聖隷浜松病院産婦人科での研修を基本として、初期研修の状況に応じて当院の麻酔科およびNICUでの研修(最終的に専門医取得までには麻酔科およびNICUでの研修は必須)
プライマリーの研修として関連する中規模病院での短期研修(聖隷横浜病院など)
3年次から不妊内分泌(生殖医学)の研修
- 専門医取得まで(4年次)までの研修を原則とし1年ごとに契約更新
- 卒後10年程度での目標は、産婦人科全般の深い知識・技量に加えて、専門分野での研修が開始されていること
- 専門医取得から卒後12年程度までの人材を、産婦人科スタッフ(スーパー専門医取得)として公募
院内・院外問わず公募する(専門分野に関してはその時点でのスタッフの状況により変動有り)
各専門分野を中心に研修するが、産婦人科全体としての業務あり

- 産婦人科専門医取得は、産婦人科医としての最低限の知識技能と考える
- 産婦人科専門医取得後も産婦人科全般の知識技能をより深く習得することが必要
- 産婦人科専門医取得後5~8年程度(産婦人科歴10年から13年程度)を目標に、産婦人科全般のスキルアップに加えて、個々のスーパー専門医取得を目標とする
- 医師歴15年以上のスタッフドクターには産婦人科一般の知識技能に加えて、スーパー専門医としての知識技能および後輩の指導、システムの構築運営などの技能が望まれる

◎産婦人科専門医取得の目標 取得可能専門医	
■産婦人科一般(General OBGY)	
■婦人科腫瘍	婦人科腫瘍専門医、がん薬物療法専門医、がん治療認定医、緩和医療専門医
■周産期	母体胎児専門医
■生殖医学	生殖医療専門医
■腹腔鏡手術	産婦人科内視鏡技術認定医
▲超音波	超音波専門医
▲臨床遺伝	臨床遺伝専門医
▲細胞診・病理	細胞診専門医